アラスカ珍道中（1945）

ROAD TO UTOPIA

メディア 映画
ジャンル コメディ　アドベンチャー
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 89分
初公開日 1949/02/17
公開情報 セントラル

【解説】

大戦末期は主演者たちそれぞれが慰安その他で忙しかったせいか、前作より３年振りの珍道中第４弾。ユーモリストのロバート・ベンチリーのご大層な迷解説がついて（“アカデミー賞を獲らないように”と釈明するのがフザけている）、このシリーズの“引き”の笑い、客観のおかしさをよりひき立てている。

冒頭、３５年振りに再会したボブ＝ドロシー夫妻とビング。“死んだはずだよ”のビングと昔話に花が咲き、サンフランシスコの安宿での拳銃沙汰の回想。撃たれたのはドロシーの父で、ここでストップ・モーション。解説ベンチリーが画面の隅、小窓で現れ“これがフラッシュ・バックです”。そして、過去のいざこざがテンポよく語られてゆく。髭モジャの悪漢二人組に奪われた父の金鉱の地図を取り返しにアラスカへ向かうドロシー。一攫千金を夢みるビングにボブが引きずられる形でアラスカ行きと相成った客席芸人の二人は、ボブが金庫と船窓を間違って所持金を捨ててしまったため、雑用係として働きながらの航海。悪漢たちの部屋を掃除し、手に入れた地図を持って、彼らになり代わってアラスカの地に立つ。一方のドロシーは土地の有権者のサルーンの踊り子になって（ベンチリー“いやらしい衣装を着せる気ですゾ”とニヤニヤ）、ニセの悪漢の彼ら双方に色仕掛け。有力者の愛人と二人して彼らに取り入り、道中を共にする。ギャグは盛り沢山でとても紹介し切れないが、山小屋に侵入したメス熊をボブがドロシーと間違え抱き締め、“模造品なんか着るな、本物の毛皮を買ってあげる”と言った所で、旦那熊の入ってくる場面や、サンタと遭遇し、玩具は要らない－－とソッポを向くと、こいつを贈ろうと思っとったが…と二人の美女が袋から出る、なんて場面は大変楽しい。クライマックスの地割れギャグのシュールさ、そして“下げ”の皮肉…。物語構造を鼻でわらう、パナマ＆フランクのコンビ脚本が実に優秀な、本シリーズの快作。

【クレジット】

監督	ハル・ウォーカー	Hal Walker	
製作	ポール・ジョーンズ［製作］	Paul Jones	
脚本	ノーマン・パナマ	Norman Panama	
	メルヴィン・フランク	Melvin Frank	
撮影	ライオネル・リンドン	Lionel Lindon	
編集	スチュアート・ギルモア	Stuart Gilmore	
音楽	リー・ハーライン	Leigh Harline	
出演	ビング・クロスビー	Bing Crosby	デューク・ジョンソン
	ボブ・ホープ	Bob Hope	チェスター・フートン
	ドロシー・ラムーア	Dorothy Lamour	サル・ヴァン・ジョイデン
	ダグラス・ダンブリル	Douglas Dumbrille	エース・ラーソン
	ヒラリー・ブルック	Hillary Brooke	ケイト
	ジャック・ラ・ルー	Jack LaRue	ルベック

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

ロバート・バラット	Robert Barrat	スペリー
ネスター・パイヴァ	Nestor Paiva	マクガーク
ロバート・ベンチリー	Robert Benchley	ナレーター

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.